

学生と社会における LGBT の意識

LGBT Awareness in Students and Society

南 泰代⁺

Yasuyo Minami

1. はじめに

(1) 研究の目的と背景

LGBT については、2006 年 7 月に「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」が施行され、これらを受けた各地の動きでは、性別の取扱いの変更の審判を受けることができるようになった。また、特別養子縁組が家庭裁判所に認められるようになった。2015 年に東京都渋谷区では、「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例」が成立し、2017 年に北海道札幌市では、「パートナーシップ制度」が開始された。2013 年文部科学省の実態調査では、身体的な性別に違和感を感じ、不登校やいじめを受けて相談した児童生徒が 606 人判明した。2015 年 4 月文科初児生第 3 号通知では、「性同一性障害に係る児童生徒については、学校生活を送る上で特有の支援が必要な場合があることから、個別の事案に応じ、児童生徒の心情等に配慮した対応を行うこと」¹等と記載された。法務省による 2017 年の人権相談では、「性的思考に関する件数は 60 (暴行虐待 6、差別待遇 45、強制強要 9)、性同一性障害に関するもの 113 (暴行虐待 0、差別待遇 103、強制強要 10) も報告されており、改善が進んでいない」²としている。

電通ダイバーシティ・ラボの調査では、「2012 年 5.2%→2015 年 7.6%→2018 年 8.9%、11 人に 1 人」とある。株式会社 LGBT 総合研究所 (博報堂 D Y グループ) の調査では、「2016 年 8.0%→2019 年 10.0%、10 人に 1 人」とある。日本労働組合総連合会の調査では、「2016 年 8.0%、13 人に 1 人」とある。名古屋市総務局総合調整部男女平等参画推進部の調査では、「2018 年 1.6%、100 人に 1 人」とある。働き方と暮らしの多様性と共生研究チームでは、「2019 年ゲイ・レズビアン、バイセクシュアル、トランス

ジェンダー、アセクシュアル 3.3%、33 人に 1 人」³とある。現在、「レズビアン」「ゲイ」としてカミングアウトして、テレビ等で活躍する人も多く、またインターネット上で話題になっている。例えば、東京大学名誉教授の日本文学研究者のロバート・キャンベルさんは、2018 年の 8 月 14 日、複数の議員による LGBT を巡る発言について自身が同性愛者だとカミングアウトした上で批判したことで有名である⁴。ベルギー首相のエリオ・ディルポは、アイスランドのヨハンナ・シグルザルドツティル首相に続き、世界で 2 人目の同性愛者の首相である⁵。このように海外の有名人はカミングアウトし、生き生きと豊かな生活をしている。これらは、教育的側面への効果が大きい。

日本でも議員や大学教授のカミングアウトが行われるようになってきた。しかし、まだまだカミングアウトしやすい社会にはなっていない。LGBT の児童・生徒に対する精神的なケアと生活上のサポートは不可欠であり、学校教育として取り上げるべき課題と考える。そのため、東海 3 県における教職課程を取得する学生を中心に意識調査を行い、その後正しい知識を理解させることが必要と考えた。

2. 先行研究

程氏他が、高知県での調査から、「LGBT として生まれてきた子どもの違和感を理解しようとする努力が教職員には求められる・・・幼児の時から男女という枠に限定せず、性別の多様性を学ぶ機会や、多様な在り方を尊重しあう考えを培う場を設定することが必要である」⁶と述べている。奥村氏他が、教員養成系大学生が有する LGBT の調査研究の結果から、「大学において LGBT に関する正しい知識を身につける必要性を感じている学生が 95%・・・大学の授

⁺ 花園大学, Hanazono University

業において LGBT についてふれた経験のある学生は 33%・・・今後、教員養成を行う大学の講義・演習等には LGBT に関する事項を必須内容として位置づける必要がある」と述べている。田中氏他は、「高校生とその保護者を含む中高年世代を対象に、LGBT に対する理解、受容、共感、肯定・否定、自己体験に関する世代間の比較を行った・・・高校生の方が受容する割合が高いこと、中高年世代は全般的に受容する割合が低く、とくにゲイに対しては拒否的な回答が多くみられた」と報告している⁸。佐藤氏他は、「教育活動の場で LGBT 当事者との接触経験を意図的に設定してその教育効果を検証した。授業後において『LGBT に対するフォビア得点』、『身近な友人に対するフォビア得点』が有意に低下していることを確認している」と報告している⁹。筆者は「教職課程を履修する学生の意識—男女平等、LGBT、いじめ、虐待、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント—において、教職課程での LGBT の理解の必要性を述べた¹⁰。これらの先行研究から、教職課程を取得する学生を中心に教育の場において、性の多様性を正しく学ぶ機会が必要であると考える。

3. 調査方法

2018 年度～2019 年度、筆者の授業を受けた X 県、Y 県、Z 県内の教職課程を履修する学生を中心に、アンケート調査を選択方式と記述式で行った。X 県 81 人、Y 県 79 人、Z 県 125 人である¹¹。最後の記述においては 3 県別で報告する。倫理的配慮として、無記名で行い、出口に箱を設置し、自由投函とした。個人の特定につながらないように分析した。

2019 年度末、2020 年 1 月から東海地域でもコロナ禍が流行し始めたため、一般調査が遅れた。2020 年 7 月～9 月まで Z 県での一般調査を行った。イベントが全て中止となったため、審議会委員、フォーラム実行委員、生涯教育の生徒の協力を得て 300 枚配布した。コロナ禍の中 102 人の協力を得た。倫理的配慮として、無記名で行い、個人の特定につながらないように分析した。

筆者は Z 県 M 市の男女共同参画審議会委員である。男女平等調査の項目中に LGBT の意識調査項目を加え 2020 年調査を行った。その調査結果と比較する。

質問項目は全国自治体のアンケート調査を参考にして作成した前回の調査と同じ内容で行った¹²。学生の記述式は、全体と LGBT の教育の必要・不必要について求めた。一般調査は選択式と 6 項目の自由記述を求めた。

4. 学生の調査結果

4-1 LGBT に関する選択式

①「あなたの性別をよければ書いて下さい」の自由記入とした。一般的なアンケートでは（男・女）の選択方式が多い。また、自治体のアンケートでは性別の欄はない場合が多い。今回の調査は、（ ）に記入する方式を用いた。回答では、X 県は「男」と記入は 29.6%の 24 人、「女」と記入は 70.4%の 57 人である。Y 県は「男」26.6%の 21 人、「女」73.4%の 58 人である。Z 県は「男」42.4%の 53 人、「女」44%の 55 人、「無記入」13.6%の 17 人である。

②「LGBT の言葉を知っていますか」質問に、「知ってる」と回答したのは、X 県は 54.3%の 44 人、Y 県は 62.0%の 49 人、Z 県は 93.6%の 117 人である。3 県の学生の 50%以上が知っていることになった。特に、Z 県では 90%以上が知っていた。

③「LGBT の内容を知っていますか」の質問に、「少しは知っている」と回答したのは、X 県は 32.1%の 26 人、Y 県は 38.0%の 30 人、Z 県は 35.2%の 44 人である。「だいたい知っている」と回答したのは、X 県は 16.0%の 13 人、Y 県は 22.8%18 人、Z 県は 60.8%の 76 人である。両方を合わせると、X 県は 48.1%、Y 県は 60.8%、Z 県は 96.0%の学生が内容を少しは知っていることになった。

④「LGBT の人を知っていますか」の質問に、「知らない」と回答したのは、X 県は 74.1%の 60 人、Y 県は 69.6%の 55 人、Z 県は 66.4%の 83 人である。「知っている」と回答したのは、X 県は 19.8%の 16 人、Y 県は 20.2%の 16 人、Z 県は 18.4%の 23 人である。「話をしたことがある」と回答したのは、X 県は 6.2%の 5 人、Y 県は 6.3%の 5 人、Z 県は 4.8%の 6 人である。「一緒にいたり遊んだりすることがある」と回答したのは、X 県は 0%、Y 県は 3.8%の 3 人、Z 県は 10.4%の 13 人である。

⑤「LGBT の人が傍に来たらどうしますか」の質問に、「傍に来たら嫌だ」と回答したのは、X 県は 4.9%の 4 人、Y 県

は0%、Z県は1.6%の2人である。「無視する」と回答したのは、X県は4.9%の4人、Y県は2.5%の2人、Z県は0.8%の1人である。「LGBTと知らないふりをして普通に話をする」と回答したのは、X県は56.8%の46人、Y県は65.8%の52人、Z県は61.6%の77人である。「親身になる」と回答したのは、X県は33.3%の27人、Y県は31.6%の25人、Z県は36.0%の45人である。3県の学生の30%以上が親身になると回答していた。

⑥「LGBTの人が気になるのは何時ごろからだと思いますか」の質問に、「幼稚園」と回答したのは、X県は7.4%の6人、Y県は8.9%の7人、Z県は0.8%の1人である。「小学校」と回答したのは、X県は24.7%の20人、Y県は16.5%の13人、Z県は30.4%の38人である。「中学校」と回答したのは、X県は51.9%の42人、Y県は55.7%の44人、Z県は56.0%の70人である。「高等学校」と回答したのは、X県は6.2%の5人、Y県は10.1%の8人、Z県は7.2%の9人である。3県の学生の50%以上が中学校と回答していた。

⑦「LGBTに人が一番困るのはどんなことでしょうか」の質問に、「男女平等」と回答したのは、X県は27.2%の22人、Y県は20.0%の15人、Z県は36.8%の46人である。「トイレ」と回答したのは、X県は12.3%の10人、Y県は8.9%の12人、Z県は15.2%の19人である。「恋愛」と回答したのは、X県は2.5%の2人、Y県は8.9%の7人、Z県は21.6%の27人である。「結婚」と回答したのは、X県は13.6%の11人、Y県は25.3%の20人、Z県は21.6%の27人である。「就職」と回答したのは、X県は34.6%の28人、Y県は25.3%の20人、Z県は2.4%の3人である。

⑧「LGBTの人がいじめを受けている割合はどのくらいだと思いますか」の質問に、「3割」と回答したのは、X県は16.0%の13人、Y県は16.5%の13人、Z県は16.0%の20人である。「5割」と回答したのは、X県は20.0%の16人、Y県は19.0%の15人、Z県は27.2%の34人である。「6割」と回答したのは、X県は6.2%の5人、Y県は17.7%の14人、Z県は14.4%の18人である。「7割」と回答したのは、X県は16.0%の13人、Y県は22.8%の18人、Z県は6.4%の8人である。3県の学生の50%以上が5割以上と回答していた。

(表1) 学生のLGBT意識

1	男	女	無記名	総計						
X県		24	57	81						
Y県		21	58	79						
Z県		53	55	17	125					
総計		98	170	17	285					
2	言葉を知らない	知っている	総計							
X県		37	44	81						
Y県		30	49	79						
Z県		8	117	125						
総計		75	210	285						
3	内容を知らない	少し知っている	だいたい知っている	総計						
X県		42	26	13	81					
Y県		31	30	18	79					
Z県		5	44	76	125					
総計		78	100	107	285					
	LGBT人知らない	知っている	話をしたことがある	一緒にいたり遊ぶ	総計					
X県		60	16	5	81					
Y県		55	16	5	3	79				
Z県		83	23	6	13	125				
総計		198	55	16	16	285				
4	傍に来たら嫌だ	無視する	普通に話をする	親身になる	総計					
X県		4	4	46	27	81				
Y県			2	52	25	79				
Z県		2	1	77	45	125				
総計		6	7	175	97	285				
5	1000人に1人	500人に1人	300人に1人	100人に1人	50人に1人	10人に1人	わからない	総計		
X県		11	13	23	11	17	6	81		
Y県		8	18	22	12	11	8	79		
Z県		11	23	19	22	24	25	1	125	
総計		30	54	64	45	52	39	1	285	
6	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	大学	大人	わからない	総計		
X県		6	20	42	5		8	81		
Y県		7	13	44	8	2	5	79		
Z県		1	38	70	9	3	2	2	125	
総計		14	71	156	22	5	15	2	285	
7	男女区分	制服	トイレ	恋愛	結婚	就職	わからない	総計		
X県		22	5	10	2	11	28	3	81	
Y県		15	2	12	7	20	20	3	79	
Z県		46	2	19	27	27	3	1	125	
総計		83	9	41	36	58	51	7	285	
8	いじめは2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	10割	総計	
X県		10	13	12	16	5	13	11	1	81
Y県		9	13	5	15	14	18	4	1	79
Z県		13	20	20	34	18	8	11	1	125
総計		32	46	37	65	37	39	26	3	285

4-2 LGBTの教育の必要・不必要の自由記述

X県では、LGBTの教育の「必要」を記述した学生が58.0%の47人、「不必要」と記述した学生は1.2%の1人である。Y県では、「必要」を記述した学生が37.9%の30人、「不必要」と記述した学生が3.8%の3人である。Z県では、「必要」を記述した学生が29.6%の37人、「不必要」記述した学生は5.6%の7人である。

4-2-1 X県でのLGBTの教育の必要の理由

X県での教育の「必要」の理由として、「個性として捉えるべきだ」「LGBTの説明が必要だ」「LGBTの人たちのために相談所が必要だ」「教師がもっと理解すべきだ」「大人が柔軟になる事が求められるのではないか」「本人がLGBTだと打ち明けないと私たちは何もサポートできない」「教師に講習会が必要だと思う」「教師がいじめをするなどあっては

ならない、日本は LGBT の理解が遅れている」「LGBT だけでなく誰に対しても優しくするべきだ」「普通に接することが一番良い」「周りの白い眼がおかしい」「入りやすいトイレの整備が必要」「教師に講習会を年に数回するべきだ」「海外では普通なのにどうして日本ではできないのか」「正しい知識を身に付ける必要がある」「LGBT の人たちと仲良くなりたい」「普通に存在と捉える社会にしないでほしい」「制服にズボンが必要」「意識の開拓が必要」「生きやすい社会に」「教師から教育、そして子どもに教育を」「精神的なケアをしたい」「教師に理解、差別のない雰囲気」「同性愛を認める社会に」「保護者が教師と相談すべき」「教師全体でサポートができるようにするべきだ」「精神的ストレスの解消」「恋愛は自由だ」「マツコデラックスのように堂々とできたらいいのに」「いじりの対象になるから教育が必要」「保健の時間に説明」「存在の知識はある、解らせるための時間は無駄」「学習指導案に取り上げる」「どのように接して欲しいか知りたい」「LGBT の人と触れ合う機会が欲しい」「みんなが知ることが大切」「友達にいたるが、悪いイメージはない」「B の友達がいる、とても面白い人、みんなが助けるべき」とある。

4-2-2 X 県での LGBT の教育の不必要の理由

X 県での LGBT の教育の「不必要」の理由として、「知られたくない人もいる、前向きな取り上げは反対」とある。

4-2-3 Y 県での LGBT の教育の「必要」の理由

Y 県での LGBT の教育の「必要」の理由として、「LGBT の知識を身につける必要がある」「負担がかからないように講演や勉強会が必要」「講演や勉強会が必要」「SNS 等で理解のない人から逃げ、理解のある人を集め発信する必要がある」「知識が必要」「普通に接したらダメなの？と思っている」「講習が必要」「LGBT に対するサポートが必要」「知らず知らず傷つけているかもしれない」「サポート職員が必要」「教師に勉強会が必要」「小さい時から勉強会が必要、サポートも必要」「理解のある人を集め発信する必要がある」「小学生から教育が必要」「普通概念を変える必要」「大学で講演が必要」「教育が必要」「個人の自由だ」「内容を知らない人が多い」「講演会をして欲しい」「教師や学生に勉強会が必要」「みんなが理解する必要がある」「個性だから尊重すべき」「中学校で学んでほしい」「知らないから、傷つ

けてしまうかもしれません」「私も女性アイドルに興味がある、同性を愛することに理解が必要」「中学校の時同級生にいたが、それまでのいじめで不登校になってしまった」

「LGBT の友達は普通の人と変わらない」「中学校の時、女性同士の交際を先生が切り離れた」とある。

4-2-4 Y 県での LGBT の教育の不必要の理由

Y 県では LGBT の教育の「不必要」の理由として、「あまり大きく取り上げるといじめがあるかもしれません」「最良の方法がとれないと意味がない」「静観すればいい」とある。

4-2-5 Z 県での LGBT の教育の必要の理由

Z 県では LGBT の教育の「必要」の理由として、「日本の教育は遅れている、先生の指導レベルが不足」「教師の給料を上げて、精鋭ぞろいに」「講演を直接聞く機会を設けるべきだ」「理解を示せる年齢や時期を考えて指導すべき」「タブーが一番よくない、取り上げるべきだ」「道徳の時間にとりあげるべき」「大学の教職の必須にする」「教職をとる人には義務付けるべき」「法律を改正すべき」「LGBT の人の話に触れないのはおかしい」「同性愛者も異性愛者も同じだと教育すべき」「特別視はおかしい、支援は必要」「婚姻を認めるべき」「影響力のある人が発信することで世に浸透させてからでないかと学ぼうとしても実感が伴わない」「身近にいるととらえるべきだ、相談しやすい環境をつくるべき」「幼少期から LGBT も性の種類に加えるべきだ、触れなければ理解がない人が増える」「近年増えてきているので、学校教育で取り上げるべきだ」「世界は LGBT の人たちを受け止めている、日本においても広く受け入れるべきだ」「国的に考えるべき」「知っていても他の人と差をつけていないです」「ふとした瞬間にバイアスを子どもに植え付ける可能性がある」「児童生徒には難しいが、教師には理解のための指導が必要」「法律を変えるべきだ」「子育てに子どもがネガティブな面がなければよいと思う」「学校教育の一貫として取り上げるべきだ」「教師が勉強したうえで、教師の意見を聞くべきだ」「社会意識が一番困る、社会の多様性に含まれるから教育での対応が必要」「学校に生活のサポートは不可欠、違いを理解することは必要」「確かに触れない方がよいという考え方もあるが、教師は学びケアするべきだ」「LGBT の人は普通の人、それを知るべきだ」「取り上げた方がよい、偏見が増えるから」「多様性は教育するべき、特異とか先入

観をもたせないようにするべき」「日本は理解が少ないから、外国で暮らせばよいのではないか」「決して珍しいものではないという認識を持って、きちんと理解したうえで向き合っていて欲しい」「性別欄が2つしかないのはおかしい、左利きか右利きかということと同じで、普通のことであるという認識を育てるべきだ」「人は他人のことについていろいろ言い過ぎ、だから傷つく、そういう教育がある」「慎重にとりあげるべき、マスメディアがとりあげるべき」「中学の時、LGBTの同級生がいたが不登校になった、私は何もできなかった」とある。

4-2-6 Z県でのLGBTの教育の不必要の理由

Z県ではLGBTの教育の「不必要」の理由として、「教育として考えるといじめが増えるかもしれない」「困ってきたら助けるべき、普段は触れるべきでない」「触れなくてよいなら触れなくてよい」「異常ではないので、触れるべきではない」「当たり前になるべきだ、面白く取り上げるべきではない」「障害と扱うのはおかしい、そういう人もいる程度に留め、刺激しない」「主観が前提として押し付けるような質問、答える価値がない」とある。

5. Z県の一般調査結果

5-1 LGBTに関する選択式

①「あなたの性別をよければ書いて下さい」の回答では、「男」35.3%の36人、「女」64.7%の66人で、無記入はなく、102人である。年代では、「20代」12.7%の13人、「30代」14.7%の15人、「40代」15.6%の16人、「50代」17.6%の18人、「60代」26.4%の27人、「70代以上」12.7%の13人である。

②「LGBTの言葉を知っていますか」の質問では、「知らない」と回答したのは、20.5%の21人、「知っている」と回答したのは79.4%の81人である。一般では80%近い人が知っていることになった。30代、40代、50代、60代では、特に高い結果となった。

③「LGBTの内容を知っていますか」の質問では、「知らない」と回答したのは19.6%の20人、「少しは知っている」と回答したのは41.1%の42人、「だいたい知っている」と回答したのは39.2%の40人である。一般では80%以上の人が内容を知っていることになった。ここでも、30代、40

代、50代、60代では、特に高い結果となった。

④「LGBTの人を知っていますか」の質問では、「知らない」と回答したのは63.7%の65人、「知っている」と回答したのは25.4%の26人、「話をしたことがある」と回答したのは5.8%の6人、「一緒にいたりする」と回答したのは4.9%の5人である。50代以下では、話をしたことがある人がいた。また、40代以下では一緒にいたりする人がいた。

⑤「LGBTの人が傍に来たらどうしますか」の質問では、「傍に来たら嫌だ」と回答したのは3.9%の5人、「無視する」と回答したのは2.9%の3人、「LGBTと知らないふりをして普通に話をする」と回答したのは65.6%の67人、「親身になる」と回答したのは27.4%の28人である。65%以上の人がLGBTと知らないふりをして普通に話をするとしていた。20代、30代では親身になる人が多く、特に20代では70%近く親身になると回答していた。

(表2) 一般のLGBT意識

1	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	総計
男	4	6	7	4	8	7	36
女	9	9	9	14	19	6	66
総計	13	15	16	18	27	13	102
2	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	総計
言葉知らない	5	2	3	2	5	4	21
知ってる	8	13	13	16	22	9	81
総計	13	15	16	18	27	13	102
3	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	総計
内容を知らない	5	1	3	2	5	4	20
少しは知っている	4	8	7	8	11	4	42
だいたい知っている	4	6	6	8	11	5	40
総計	13	15	16	18	27	13	102
4	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	総計
LGBT人知らない	7	9	9	12	18	10	65
知っている	2	4	4	4	9	3	26
話をしたことがある	1	1	2	2			6
一緒にいたりする	3	1	1				5
総計	13	15	16	18	27	13	102
5	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	総計
傍に来たら嫌だ			1	1		1	4
無視する					1		3
普通に話をする	4	7	14	14	21	7	67
親身になる	9	7	1	3	5	3	28
総計	13	15	16	18	27	13	102
6	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	総計
気になるのは幼稚園		2	1	1	5	3	12
小学校	4	7	8	10	7	4	40
中学校	8	6	6	7	13	6	46
高等学校	1					1	2
大学					1		1
大人			1				1
総計	13	15	16	18	27	13	102
7	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	総計
困るのは男女区別	3	6	4	8	11	2	34
制服		3	3	2	1	3	12
トイレ	4	4	4	3	4	7	26
恋愛		1		2	4		7
結婚	5	1	5	2	7	1	21
就職	1			1			2
総計	13	15	16	18	27	13	102
8	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	総計
いじめは2割	1		5	1	6	1	14
3割	1	3		1	5		10
4割	2	3	2	2	1	4	14
5割	3	3	2	4	3	6	21
6割	3	1	3	1	3	2	13
7割		2	1	3	6		12
8割	3	3	3	5	3		17
10割				1			1
総計	13	15	16	18	27	13	102

⑥「LGBTの人が気になるのは何時ごろからだと思いますか」の質問では、「小学校」と回答したのは39.2%の40人、「中学校」と回答したのは45%の46人である。一般では年代に関係なく、80%以上の人が小学校・中学校と回答していた。

⑦「LGBTの人が一番困るのはどんなことでしょうか」の質問では、「男女区別」と回答したのは33.3%の34人、「トイレ」と回答したのは25.4%の26人「恋愛」と回答したのは6.9%の7人、「結婚」と回答したのは20.5%の21人である。20代、40代では結婚、30代、40代、50代では男女区別、70代ではトイレが高かった。

⑧「LGBTの人がいじめを受けている割合はどのくらいだと思いますか」の質問では、「5割」と回答したのは20.5%の21人、「8割」と回答したのは16.6%の17人である。一般では年代に関係なく、50%以上の人が5割以上と回答していた。

5-2 LGBTに関する自由記述

①「LGBTの人の自殺問題についてどう思いますか」の質問の回答は、「重い問題だと思う」「いじめからか、自分自身に苦しむのか」「この先社会問題として考えないといけない」「痛ましいことだと思う」「深刻な問題だ、あってはならないことである」「自殺はみんなの幸せを奪う」「悩みを受けられる施設が必要」「周囲の受け入れが必要」「相談サイトはあるが、受け入れる場所がない限り減らない」「気軽に相談できるコミュニティが不足している」「自分が他者と異なると考え苦悩するからでは」「他の人に話せない悩みを打ち明けられないのだ」「LGBTが原因で自殺に追い込まれるような社会は改善させるべきだ」「個性を尊重する社会ならば、こういう悲しいことは防げるのではないかと思う」「世の中に認知されていないことが原因の1つだ」「人権、生きる権利は平等であるはずなのに追いつめられる世の中に憤りを感じる」「心が痛む、一人で悩んだり辛い思いを感じさせないよう周囲の深い理解が必要だと思う」「何とか防ぐことができないかと思う」とある。

②「LGBTの人たちの結婚についてどう思いますか」の質問の回答は、「結婚という形にこだわらなくていいのではないか」「お互いが良ければいいと思う」「自由でいい、良いと思う」「政府が認めるべきだ」「自分たちの責任において自

由にすればいいと思う」「両者が良ければ良いのでは」「認めたい」「法改正して結婚できるようにした方が良い」「性別に関係なくお互いの気持ちで結婚できるようになれば良いと思う」「悪いことではない、幸せに暮らして欲しい」「法制度が遅れている」「自由にできたら良いと思う」「性に関係なくできたら良い」「当事者の気持ちで決めれば良い」「本人同士が望むなら祝福されるべきだと思う」「難しい問題がありそうに思う」「個人の自由だが、法律のハードルが高い」「結婚は無理」「まだまだ日本では受け入れられないと思う」「少子高齢化社会を考えると難しい問題だと思う」「将来不安になると思う」とある。

③「LGBTの人たちが里親制度・養子縁組をして子育てをしています。どう思いますか」の質問の回答は、「良いことだと思う」「今の社会では困難が多いが、理解され認められる社会になれば良いと思う」「素晴らしいと思う」「何らかの理由で子どもができない人と同じだと思う」「是非積極的に里親制度や養子縁組を進めて欲しい」「よく考えてから進めた方が良いと思う」「TVで見てそのような生き方もあるのかと思った」「子どもが幼稚園でいじめられないか心配だ」「自分たちで人工授精しているらしいが心配だ」「良いと思うが、社会がそれを当たり前と思わない限りいじめられると思う」「LGBTからとかではなく、実の親でもネグレクトや虐待が起こっている、育て方が大切」「子どもが大切に育てられるならいいと思う」「そこに至るまでに色々考え決断したことだと思う、素晴らしいと思う」とある。

④「市営住宅をLGBTの人たちに貸し出ししてくれる自治体が増えています。どう思いますか」の質問の回答は、「良いと思う」「もっと増えるべきだ」「問題ないと思う」「LGBTという理由で借りられないのはおかしい」「認めるなら国や自治体が支援するべきだ」「推進して良いと思う」「賛成です」「良いと思う、社会的に受け入れられない人がいるのはおかしい」「もっとどこでも進めて欲しい」「貸し出さない自治体が極少数派になるように広げていきたい」「当然だと思う」「LGBTであっても、結婚も恋愛も同居も自由であって良いと思う」「民間では貸してもらえないので、早く自治体が解決するべきだ」「徐々に増え市営だけでなく、私営でも分け隔てなく貸し出ししてもらえるようになれば良いと思う」「駄目」とある。

⑤「婚姻が認められない日本では相続もできません。どう思いますか」の質問の回答は、「理不尽だ」「認めるべきだ」「婚姻を認めるような法律に変えるべきだ」「諸外国のように法律で取り組むことが必要」「法制度を見直す」「一刻も早く解消して欲しい」「法治国家である以上法律を改正するよう働きかける必要がある」「今後考えていかねければならない」「人間は平等である」「検討課題だと思う」「相続がからんでくると難しいと思う」「里親制度や養子縁組を積極的に進めたら認められるようになるのでは」「相手が死んだら家もなくなる、住む所もなくなるから早く法を改正するべきだ」「相続は認めるべき、愛する人に残したいから」「憲法が変わらない間は無理、徐々に変えていく必要がある」「今はしかたない、いずれ婚姻が認められたら解決する」とある。

⑥「もし、子どもや孫がLGBTと告白してきたらどうしますか」の質問の回答は、「考え直してと言う」「そんな考え方がない」「隠すと思う、東京に出す」「悩むと思う」「しっかり受け止められるか心配である」「びっくりすると思う」「仕方がない」「悩むかもしれませんが」「最初は戸惑うと思うが協力したい」「親として受け入れる」「何度も話を聞いて理解する」「その子の意思を尊重する」「真面目に向き合いたい」「少し戸惑うが、受け入れたい」「かなり迷うと思うが受け入れると思う」「その子の人生、その子が良ければいいと思う」「尊重する、守る」「ショックだが、どうしようもない。本人の望むように協力してあげたい」「理解して受け止め受け入れると思う」「しっかり考えアドバイスする」「理解するように努力したい、子どもが幸せになることを考える」「近親者だと素直に受け止められないと思う、理解するのに時間がかかると思う」「戸惑う、その時になったら応援出来たら良いと思う」「困っていることがあれば一緒に考える」「適切な相談相手を探してあげたい」「受け止める、辛い思いをしてこなかったか話を聞く」「告白するのに覚悟がいると思うので、家族でありながら気づかず苦しめていたことを謝り、今後のことを考えたい」とある。

6. Z県M市の調査結果

Z県M市の意識調査では、「聞いたことがある」「知っている」と回答した割合が高い。30代、40代、20代、10代

で特に高い。しかし、70代以上では、「知らない」と回答した人が48.1%と高かった。今回の調査でも70代以上で高くなった。

7. 学生の調査結果のまとめ

性別の記述に無記入が17人いたが、17人がLGBTということにはならないと考える。性別を書く必要がないと考えている学生が17人いたと理解する。LGBTの言葉は3県で50%以上の学生が知っていた。内容も48%以上の学生が少しは理解していた。LGBTの人を知らない学生が65%以上と高かった。知っている学生は20%前後で、話をしたことがある学生は5%前後であった。一緒にいたり遊んだりすることがある学生はX県では4%弱、Z県では10%以上であった。3県の調査でLGBTの人が傍に来て普通を受け止められる学生が多いことがいえた。親身になる学生は3県全てで30%以上と高い結果となった。LGBTの人が意識する時期は、中学校の頃と考えている学生が50%以上であった。一番困ることは、Y県では就職と男女区分が多く、X県では結婚と就職が多く、Z県では男女区分が多かった。県によって少し相違があった。いじめの割合は、X県・Z県では5割と考える学生が多く、Y県では7割が多かった。学生の多くは5割以上と回答していたことより、LGBTの人がいじめを受けている現状を理解しているようであった。

LGBTの教育の必要の自由記述において、3県の学生の多くが必要と回答していた。LGBTの人を理解したい、触れ合う機会を持ちたいと記入していた。LGBTと解らないと知らないうちに傷つけてしまうと心配している学生もいた。また、中学校の時の同級生のいじめや登校拒否に何もできなかったことを告白していた。教師の対応の悪さも指摘していた。

8. 一般の調査結果のまとめ

一般ではLGBTの言葉を知っている割合が高くなっていった。年代別では、20代と70代以上で言葉を知らない人が多かった。LGBTの人を知らない人は2割を占めた。年代別では、60代と70代の人では、LGBTの人を知っているが話をしたことがなかった。50代では話をしたことがあるが、一緒にいたりすることはなかった。20代、30代、40代

では LGBT の人と一緒にいたりする人があり、特に 20 代では多かった。年代では、70 代以上では LGBT の人が傍に来たら嫌だ、無視する人が多かった。30 代、40 代、60 代でも傍に来たら嫌だと思う人がいた。20 代では親身になる人は非常に多い結果となった。自由記述では、法的に遅れていると指摘している人が多かった。

9. おわりに

LGBT の言葉や内容は学生も一般も理解し、普通に話をする人が多いことがいえた。また、いじめを受けていることも理解していた。学生も一般も小学校・中学校と考えている人が多かった。筆者は、「LGBT の人の相談員講習会にも参加しているが、幼稚園の頃から、『スカート？トイレ？』と気にかかると聞いている」とアンケート後の授業で話を

すると、驚いている学生が多かった。

X 県・Y 県・Z 県の学生のほとんどが LGBT の人を普通と捉え、もっと理解がしたい、親身になりたいと考えていることが解った。一般の人の意見に、「子どもや孫が LGBT と告白したらどうしますか」の質問に、ほとんどの人が、その子の告白してきた状況を真剣に受け止め、理解し寄り添いたいと答えていた。

LGBT の人の精神的なケアと生活上のサポートは不可欠であり、学校教育として取り上げるべき課題である。鄭氏、奥村氏、田中氏の述べるように、教職課程を取得する学生を中心に社会での現状を把握し、教育の場で正しい知識を理解させることが必要と考える。

¹ 文部科学省 性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/04/1357468.htm

² 法務省

www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04_00126.html

³ JobRainbow

<https://jobrainbow.jp/magazine/lgbt-percentage>

⁴ ロバート・キャンベル自民党の谷川衆院議員による「(同性愛は)趣味みたいなもの」など、性的少数者(LGBT)を巡る一連の問題発言について、日本文学研究者のロバート・キャンベル東京大名誉教授(60)は14日、共同通信の取材に応じ、自身が同性愛者だと明らかにした上で「政治家がこういうことを言うことに幻滅し、危惧も感じる」と批判し、「(性的指向は)自分の中に通底する一つの芯のようなものだ」と述べた。

<https://www.sponichi.co.jp/entertainment/news/2018/08/14/kiji/20180814s00042000292000c.html>

⁵ エリオ・ディルポ 以前こちらのニュースでお伝えしたエリオ・ディルポ氏が、正式にベルギーの首相に就任することになりました。アイスランドのヨハンナ・シグルザルドッティル首相に続き、世界で2人目の同性愛者の首相に、そして初めてのゲイの首相ということになります。日経新聞によると、ベルギーでは昨年6月の総選挙以来、新政権が発足しない「政治空白」が500日以上続いてきましたが、主要6政党が政権樹立で合意し、フランス語圏中道左派ワロン系社会党のエリオ・ディルポ党首(60)が首相に就任することが決まりました。

<https://gladxx.jp/news/2011/12/1961.html>

⁶ 程 雪麗・是永かな子「B 県における特別ニーズ教育としての学校教育における LGBT 支援の現状と課題—当事者の聞き取り調査から—」『高知大学教育実践研究』32(2018年)205~217 頁

⁷ 奥村遼・加瀬進「教員養成系大学生が有する LGBT の知識・理解・学習経験に関する調査研究：T 大学におけるアンケート調査を手がかりに(fulltext)」『東京学芸大学紀要』総合教育科学系68(2)1-10 頁

⁸ 田中敏明・貞末俊裕・武谷美咲『LGBT の知識と理解に関する世代間格差』九州女子大学紀要 九州女子大学54(2), 2018, 115-127 頁

⁹ 佐藤裕紀子『性的マイノリティ当事者との接触経験がもたらす教育的効果—ジェンダー・ダイバーシティ教育の視点から』茨城大学教育実践研究茨城大学(38), 35-44, 2019-11

¹⁰ 南泰代「教職課程を履修する学生の意識—男女平等、LGBT、いじめ、虐待、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント—環境福祉学研究第5巻第1号77-87 頁

¹¹ 愛知県(同朋学園の教職課程を履修する学生)、岐阜県(高等専門学校の一般教養課程を履修する学生)、三重県(三重大学の一般教養課程を履修する学生)にてアンケート調査

¹² 南泰代「教職課程を履修する学生の意識—男女平等、LGBT、いじめ、虐待、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント—環境福祉学研究第5巻第1号77-87 頁参考